

【2024/9/21 @鎌倉生涯学習センター】

「茨木のり子 2024 秋」のイベントは、鎌倉生涯学習センター@鎌倉駅前で行うことにしました。9月21日(土曜)、15:00～17:00です。これには、鎌倉在住の知人にお世話になりました。

しかし、茨木のり子の行事を鎌倉で行う意義について説明しなければなりません、それには次のような背景と係わりがあるといえます。

茨木のり子の詩情は、鎌倉で大成しそこで人生を終えた禅の研究の大家・鈴木大拙の、禅の心に通じるものであり、これが最も深い背景とすることが出来るのです。

彼女は鎌倉に住んではいなかった。しかし鎌倉在住の文化人などとの関わりはあったし、また近くの藤沢市鵜沼海岸へ出かけた記録などがあるのですが、そうした係わりよりは、禅との係わりの方が、むしろ重要になります。

この背景については今後、一文としてまとめて説明しようと思いますが、以下のように、簡単に書いておきます。

すなわち、茨木のり子の詩情と禅の思想との関係を以下のように整理してみます。

内面的な自由:

茨木のり子の詩は、自己の感受性や内面的な自由を強調しているので、これは、禅の思想における心の解放や自由と深く結びついています。鈴木大拙の教えで強調する、心の束縛からの解放というテーマは、彼女の詩にも通じています。

自己の探求と本質の追求:

彼女の詩は、自己の本質を探求し、真の自己を見つめることを強調しています。これは、禅の修行における自己の本質を見つめる過程と一致します。鈴木大拙の禅の教えが強調する「自己の見つめ直し」は、茨木のり子の詩情にも深く影響を与えていると言えます。

シンプルさと明快さ:

彼女の詩はシンプルで明快な言葉遣いが特徴です。これも、禅の教えにおけるシンプルさと核心を突く表

現と共通しています。つまり、鈴木大拙の教えにある禅のシンプルな表現は、茨木のり子の詩のスタイルと共通しているといえます。

自然との調和:

茨木のり子の詩には、自然との調和や一体感が、多く描かれています。これも、禅の思想における自然との一体感と重なると指摘できます。結果、鈴木大拙の立場と茨木のり子の詩情とは関連が深いといえます。

これらの境地は、禅における「自由」という概念と重なっています。ただ、禅での「自由」は、西洋の概念である freedom や liberty とは異なっているというのが要点です。

そして、禅の「自由」は、自己の内面の解放や心の平静を指し、外部の制約や他人の評価に左右されない自己の在り方に重点を置いています。それは、人間の生き方への示唆となります。

この点で、茨木のり子の詩「自分の感受性くらい」や「寄りかからず」は、とりわけ一致します。そこでは「自由」とは言っていませんが、物理的な自由や社会的な自由を超えたものであり、心や精神の自由からの解放を詩にしています。

こうして、茨木のり子の詩と禅の「自由」は、このように内面的な自由と深く関連しています。彼女の詩は、自己の感受性や感情の自由を表現し、他人の評価や社会の期待にとらわれない《強い意志》を感じさせます。

以上、彼女の詩情は禅の「自由」と共鳴&共在していることを述べました。茨木のり子の詩は、読み手にそして読者である市民に、自己の内面を見つめ直し、真の自由を追求することの大切さを伝えています。この場合には、身近に、いまを生きる「自由」を前提としてもいいでしょう。

こうして鎌倉で茨木のり子のイベントを行うことの意義を見出せるのではないのでしょうか？これから、その内容を組み立てたいと思います。

<https://kirara-kamakura-city.jp/outline-kamakura/>